

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策 定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 24 日実施)	総合評価（3 月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図り、進路実現に向けた支援を推進する。 ②国際理解教育等を通して、生徒一人ひとりの自立に向けて、視野を広げ豊かな人間性と社会性を育成する。	①生徒の学力向上に資するために学習環境の整備を行う。また、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるとともに、生徒の深い学びの実現を図る。 ②姉妹校交流や留学生との交流などの教育活動を通して、生徒一人ひとりが主体的に取り組める機会を与え、その企画の推進に努める。	①(1) ICT 機器の利活用の促進を行うなど、多様な学習機会を提供し、生徒が自ら学習する意欲の向上を図る。 (2) 組織的な授業改善の推進を継続する。 (3) カリキュラムマネジメントの視点に基づいた教育課程の実施および見直しに努める。 ②姉妹校交流等の交流活動において、生徒の主体的な活動を引き出し、相手校の生徒と共に意義深い経験となるよう取り組む。	①(1) ICT 機器の学習環境の整備が進んだか。 (2) 生徒の学習意欲の向上について、授業評価のうちの自己評価の項目において 2/3 程度以上の生徒がプラスに評価したか。 (3) 生徒による授業評価の向上に繋がったか。 ・教育課程の検討が進んだか。 ②生徒が主体的に取り組める場面や活動満足度がアンケートを通して上がったか。	①令和4年度より導入されていた一人一台端末が、今年度全学年に導入された。その活用のためのアプリケーション「ロイロノート」についても全学年で利活用された。これにより、授業を担当する多くの教員が有効活用できたことで、教員の授業力向上と生徒の授業への積極的な参加につながった。 また、今年度より各教室に大型電子黒板が配備され、他の ICT 機器との活用と合わせて効果的、効率的に授業が行われた。 新カリキュラムとなって3年(1周)が経過し、今年度さらなる改善に向けて検討した結果、令和8年度からの教育課程が完成した。 ②水原外国語高校が来校し、歓迎会および茶道体験し本校の生徒宅にホームステイをした。グアムのセントポールクリスチャン高校を訪問し授業参加、交流会が行われた。また今年度よりオーストラリア訪問が9日間実施された。いずれも事前研修として英語による日本紹介のプレゼンテーションを準備や外部講師を招いて英会話の練習を行い、各自が目標をもって取り組んだ。帰国後は全員が英語でレポートを作成した。同年代の生徒やホストファミリーとの交流を通して異文化理解を深め、さらなる英語力向上等、新たな目標を持つ一助となった。	①今年度、全学年で一人一台端末が導入され、大型電子黒板も各教室に配備されたことから、より多くの職員への研修を実施して、これらを利活用した授業技術はもとより、授業内容や生徒への問いかけなどのソフト面を含めたさらなる授業力向上に努める。 ②今後も生徒が主体的に取り組むことができる環境を整え、国際理解教育の推進に努める。	①大学に入学してくる学生の ICT スキル向上を実感しており、高等学校での取組の成果と考えている。 ①電子黒板で提示、共有したデータ等は生徒たちに共有されるのであれば生徒のノート作成にも活用できる。 ①中学校では授業における ICT（デジタル）とアナログのバランスを見直し始めている。 ①中学では「学習者中心の学び」の実践を目指しているが、「高校入試に対応した学び」とのバランスにも苦慮している。高校でも同様な状況にあることがわかった。	①ICT を活用するにあたって「教員がどう教えるか」「教員がどのような教材を選ぶか」「生徒にはどう見えているか」という視点を持って授業改善を行う。 ②台湾修学旅行や姉妹校交流等の活動において、生徒の主体的な活動を引き出し、相手校の生徒と共に意義深い経験となった。	①ICT 活用を継続するとともに、研修や授業互見等によって組織的授業改善に引き続き取り組む。 ②引き続き生徒が主体的に取り組むことができる環境を整え、国際理解教育の推進を図る。
2	生徒指導・ 支援	①生徒のさまざまな活動の主体性を尊重し、生徒に向き合って、リーダーシップを育成する。 ②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を定着させる。	①生徒組織それぞれの自主的・主体的な運営を促すとともに責任を持たせ、有意義な活動と達成感の向上を目指して、適切な指導と助言を行う。 ②生徒のメンタル面での変化を早期にとらえ、適切かつ丁寧な対応を行う。	①生徒会本部及び各種委員会がそれぞれ課題を認識し目標を立て、協力しながら達成に向けた活動が行われるよう支援する。また、部活動が達成感と育ちあいの生まれる場となり、それが安全な環境で行われるために、支援と環境整備を行う。 ②生徒への声かけを日常的に行い、生徒の変化の早期発見に努め、学年	①各種活動や行事において、生徒による総括や、生徒アンケートで活動満足度が上がったか。 ②かながわ子どもサポートドックおよび学校生活アンケートを有効活用しながら	①アンケート結果によると行事に対する満足度はかなり高かった。特に文化祭は、食販を復活させ前年度より2ポイントの上昇がみられた。（とても良い、良いが R5：97.8%→R6：99.6%）前年度に引き続き、生徒会執行部や実行委員等とのやり取りを丁寧に行っていることも高い満足度を維持できている要因かと思われる。また、部活動についても、利用頻度が高まっているトレーニングルームの器具の充実をはかった。 ②教育相談の支援状況としては S C に繋げた生徒は 71 (87) 名【R 5 年度 141 (52) 名】 S S W に繋げた生徒は 23 (77) 名【R 5 年度 53 (45) 名】であり、ともに通常面談が減少し、プッシュ型面談が増加した。（ ）内はサポートドッグによるプッシュ型面談数。かながわ子どもサポートドック及び学校生活アンケートの実施回数を整備し、アンケ	①本校の行事は満足度や達成感が高いが、教員生徒双方とも負担は大きく、引き続き、行事規模の適正化及び持続可能な行事のあり方と伝統の継承とのバランスを考慮して、検討を続ける必要がある。 ②通常面談を受ける生徒がプッシュ型面談を受けることで昨年度より通常面談を受ける人数が減ったが、継続的に面談を受けている生徒や、アンケート時に問題はなかったが、新たに通常面談を受けたい生徒の時間が確保できないことがあった。また、プッシュ型面談を受けた生徒の継続的な支援が充分に行えなかった。これらの改善策は、本校のように生徒数が多い学校に対しては、 S C、 S S W	①アンケート結果で学校生活への満足度が高い生徒が多数いるのはわかった。一方で満足度の低い生徒への対応はどのようにしているのか。 ②サポートドックの取組による成果が出ているとのことだが、大学でも課題を抱える学生がいる。高校のように担任制ではないことや S C と S S W の 2 名体制ではないことなどもあり苦慮している。 ②生徒の S N S 利用	①体育祭、文化祭、合唱祭を軸にした本校の行事については、行事規模の適正化及び持続可能な行事のあり方と伝統の継承とのバランスを考慮して引き続き見直しをすすめていきたい。 ②サポートドック及び S C や S S W との面談、教育相	①学校行事については他校の状況についての情報収集を継続するとともに、事後アンケートも参考にしながら検討を継続する。 ②教育相談体制は充実しているが、引き続き見直しを行う。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策 定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				会や教育相談コー ディネーター会 議、ケース会議を 活用して教員間で 生徒情報の共有を 図り、チームによ るきめ細かな支援 を行う。	生徒のメンタル面 での変化を早期にと らえ、適切な対応を行 うことができたか。	ート実施後のＳＣ、ＳＳＷによるプッシュ型 面談の期間を十分に設けたことで、プッシュ 型面談を受けた生徒が増え、支援を必要とす る生徒へ早期に適切な対応をとることができ た。	の勤務日や、人数を増やす等の要望 を引き続き行っていく。	に係る課題について 対応できる支援体制 確立についても検討 をすすめてほしい。	談コーディネ ーター会議、 ケース会議等 による支援体 制を引き続き 充実させた い。	
3	進路指導・ 支援	キャリア教育 を充実させ、 目的意識を持 って学習に取 り組む姿勢を 育む。	生徒自身が希 望する進路に ついて考え判 断する力を育 めるよう、3 年間を通して 必要かつ適切 な支援を行 う。	3カ年を通じてキ ャリア教育ガイ ドブックの活用、外部 テストの受験・新 しい入試制度の分 析などを行い、系 統的な進路指導 を行う。	説明会やガイダ ンス、体験の機会、各 種試験を有機的に結 び付けて実践するこ とができたか。	各学年予定通り、それぞれの時期に応じた各 種説明会を開催し、生徒の進路選択に有意義 な情報提供を行えた。 特に新課程入試の1年目ということで、3年 生については、各入試制度の概要や出願条件 等の情報を適切に提供できた。 開室2年目となる自習室の利用について、3 年生を中心に多くの生徒が積極的に活用して いた。	新課程入試のスタートに伴い、入試 の概要や出願条件等に変化が一部見 られた。今後も情報収集と共有を徹 底していきたい。 また、年内入試（学校推薦型選抜・ 総合型選抜）に向けて、1年時より 小論文の対策等を充実させたい。 自習室について、さらに使いやす くなるよう、環境整備を行いたい。	・進路実績が徐々に 向上しているよう である。キャリア教育 プログラムの見直し やICTの活用による 授業力向上及び授業 内容の充実が大学受 験にもつながってい ることがわかった。	・生徒が希望 する進路の実 現に向けた取 組を充実させ てきたこと で、国公立や 早慶上智、立 教等への進学 も増えた。	・引き続きキ ャリア教育プ ログラムの充 実に努める。
4	地域等との協 働	地域等への貢 献活動や教育 力の活用を通 して、地域に 信頼される学 校づくりを推 進する。	地域に貢献で きる教育活動 の充実を図 る。	①地域貢献活動に ついて、生徒の意 見を取り入れる 等、主体的な活動 となるよう検討や 工夫を行う。 ②防災訓練や地域 理解活動を通じ て、地域との交流 を深め、地域防災 について連携をさ らに深める。	①地域貢献活動につ いて、生徒の主体的 な活動となるよう検 討や工夫したか。 ②防災教育において 具体的な地域理解及 び体制づくりができ たか。	①地域貢献活動については自治会の夏祭りな どの運営面での協力を図ることができた。 生徒会や吹奏楽部やチアダンス部、ボラン ティア部など多くの部活動などが協力し、様 々な場面で積極的な活動が図れた。 ②1学年の4月に、津波のシミュレーション トレーニングやDIG研修を実施、近隣の広域 避難場所及び避難経路の確認、また鎌倉市の 津波避難ビルや広域避難場所について調べ、 実際に場所の確認を行う学習を実施するなど 防災についての意識を高めるとともに地域理 解に努めた。 また避難訓練や防災委員会による喫食訓練な どを実施した。	①引き続き地域貢献活動における生 徒の主体的な取り組みを推進してい くとともに、地域の様々な行事や活 動に対して、地域のために生徒たち の若い力を発揮できる場や環境の整 備に努める。 ②地域と協力した防災活動の取り組 みについては今年度も実施できな かったので、次年度については連絡体 制を構築し、防災での交流も図れる ように努める。	・地域の夏祭りには 100名を超える生徒 が参加してくれ、そ のような取組に感謝 している。 ・例年11月に七里ガ 浜小学校で4地区連 合の防災訓練を実施 している。それに向 けた取組をはじめて はいかがか。	①地域のイベ ント参加につ いては、ボラ ンティア部、 吹奏楽部、ダ ンス部、チア リーディング 部、茶道部等 多くの部等 による参加があ った。 ②地域防災に も取り組んで いきたい。	②例年11月に 行われている 七里ガ浜小学 校での4地区 連合の防災訓 練への参加に 向けた取組を すすめる。
5	学校管理 学校運営	①安心・安全 な教育環境の 整備に努める など、教育課 題に対して積 極的に取り組 むとともに、 学校の取り組 みの情報発信 に努める。 ②教員の働き 方改革を推進 し、組織的な 学校運営と校 務の効率化を 図る。	①継続した生 徒の学習活動 の整備・充実 に努めるとと もに、社会で 必要とされる 学校となるよ う職員・生徒 の意識向上を 図る。 ②働きやすい 職場づくりの ための職場環 境を整える。	①清掃分担の計画 を立て、生徒環境 整備委員や技能技 員、PTAと協 力・連携して、校 内美化やゴミの減 量化及び資源化に 努める。 ②業務に対するス トレスが軽減され るよう、業務分 担・内容の見直し を行う。	①生徒アンケートで 校内美化に対する意 識や取組が向上し たか。 ②ストレスチェッ クで高ストレス者 の割合が15%未 満であったか。	①計画的に大掃除を実施した。またオフィス 改善事業に伴い、学びやすい・働きやすい職 場環境の整備を目指し、産業廃棄物廃棄のた めのコンテナを定期的に設置するなど、校内 美化活動を積極的に行った。 またPTAの協力のもと校内における汚れた壁 のペンキ塗りを行い、50周年に向けての校 内整備を推し進めた。 ②ストレスチェックでの高ストレス者の割合 が15%未満ではなかった。 またストレスチェックの受検率が低かった。	①生徒へのアンケートについて、継 続的に実施することができなかつ た。次年度に向けて、振り返り方法 について検討し、校内美化に向けて さらなる意識付けの強化を図る。 ②ストレスチェックの受検率の改善 を図り、職場全体の正確なストレス 状況を把握できるように実施の方法 を検討し、改善を図りたい。 また、全体の業務量が減少しても、 特定の人に対して業務が集中する状 況があるため、内容を整理すると ともに分担の見直しも継続する。		①長寿命化工 事やオフィス 改善事業、50 周年記念行事 等に向けた取 組を行うこと ができた。 ②ストレスチ ェックについ ては受検率が 低かった。	②ストレスチ ェック受検率 の向上に向け た取組をすす める。